

2017 年度
「シチズンシップ・スタディーズⅠ」
（地域活性化ボランティア）
受講ガイド《衣笠キャンパス版》

立命館大学サービスラーニングセンター

衣笠：有心館 1 階

Tel: 075-465-1952 / Fax: 075-465-1982

BKC：アドセミナリオ 1 階

Tel: 077-561-5910 / Fax: 077-561-5912

OIC：A棟 1 階AN事務室

Tel: 072-665-2195 / Fax: 072-665-2059

（3 キャンパス共通）

窓口時間（開講期間中）：月曜日～金曜日/10:00～17:00

サービスラーニングセンターe-mail: ritsvc@st.ritsumei.ac.jp

サービスラーニングセンターHP: <http://www.ritsumei.ac.jp/slc>

目次

はじめに（重要なお知らせ）	2
ボランティア活動を通して地域で学ぼう！	
ボランティアだけで奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。それがサービラーニング！	
1. 「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の流れ	4
2. 学研災付帯賠償責任保険について	6
3. 評価について	6
4. 受講の中止について	6
5. 大学での授業スケジュール	7
6. 教員による指導・アドバイス（コアタイム）、受講中の諸相談について	8
7. 学部別単位授与について	9
8. FAQ（よくある質問）	10
9. 活動する上で心がけたいこと	11
10. プロジェクト紹介	12～

プロジェクト一覧

キャンパス	プロジェクト名	クラス	曜日時限	担当教員	掲載ページ
衣笠	減災×学びプロジェクト	GA	月曜 5 限	宮下 聖史	P12
	時代祭応援プロジェクト				P14
	ユース街づくりスタッフ「チーム街スタ」プロジェクト	GB	水曜 3 限	秋吉 恵	P16
	「里山体験プログラム」を企画するプロジェクト				P19
3キャンパス合同	ネパール・子どもスマイルプロジェクト	G	土日等の授業日以外に実施	秋吉 恵	P22
	ネパール・女性×フェアトレードプロジェクト				P24

はじめに（重要なお知らせ）

- 何事においても積極的に取り組んでください。
- ボランティア活動に責任をもち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
- ボランティア活動全体を通して、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
- キャンパスを離れ、地域で活動し、学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。
- ボランティア活動先でトラブルなどが発生した場合は、直ちにサービラーニングセンターに相談してください。
- 本ガイドや各種書類、サービラーニングセンターホームページの情報をよく読み、記載内容の見落としがないよう注意してください。
- 各種提出書類の期限を厳守してください。
- 各種書類の提出は本人に限ります。
- 不明な点や質問がある場合は、サービラーニングセンターに問い合わせてください。
- 記載されている内容や日程が予告なしに変更される場合があります。各自、確認を心がけてください。

ーボランティア活動を通して地域で学ぼう！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」(7 回生以上: 地域活性化ボランティア。以下、「シチズンシップ・スタディーズⅠ」で統一します)は、立命館大学サービスマーケティングセンターが開講する正課科目です(課外活動ではありません)。この授業は、みなさんがボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目標としています。

ボランティア活動は、大学のキャンパス内だけでは得られない、かけがえのない経験を受講生にもたらししてくれます。さらに、地域で活動を行うことは、自らが暮らす地域をこれまでとは違った視点で捉えることを可能にするだけでなく、大学で学ぶ知をいかに地域で活かせるかを学ぶ契機となります。

ボランティアプログラムの開発・運営にあたっては、大学やサービスマーケティングセンターが京都府、滋賀県や大阪府内の行政、公的機関、NPO、地域組織などと協定(覚書)を締結した上で実施します。

ボランティア活動の期間は、数日程度の短期で行うものから、数ヶ月程度の長期で行うものまでさまざまです。受講生が自身の興味や関心に沿って、参加するボランティア活動を選択することができます。

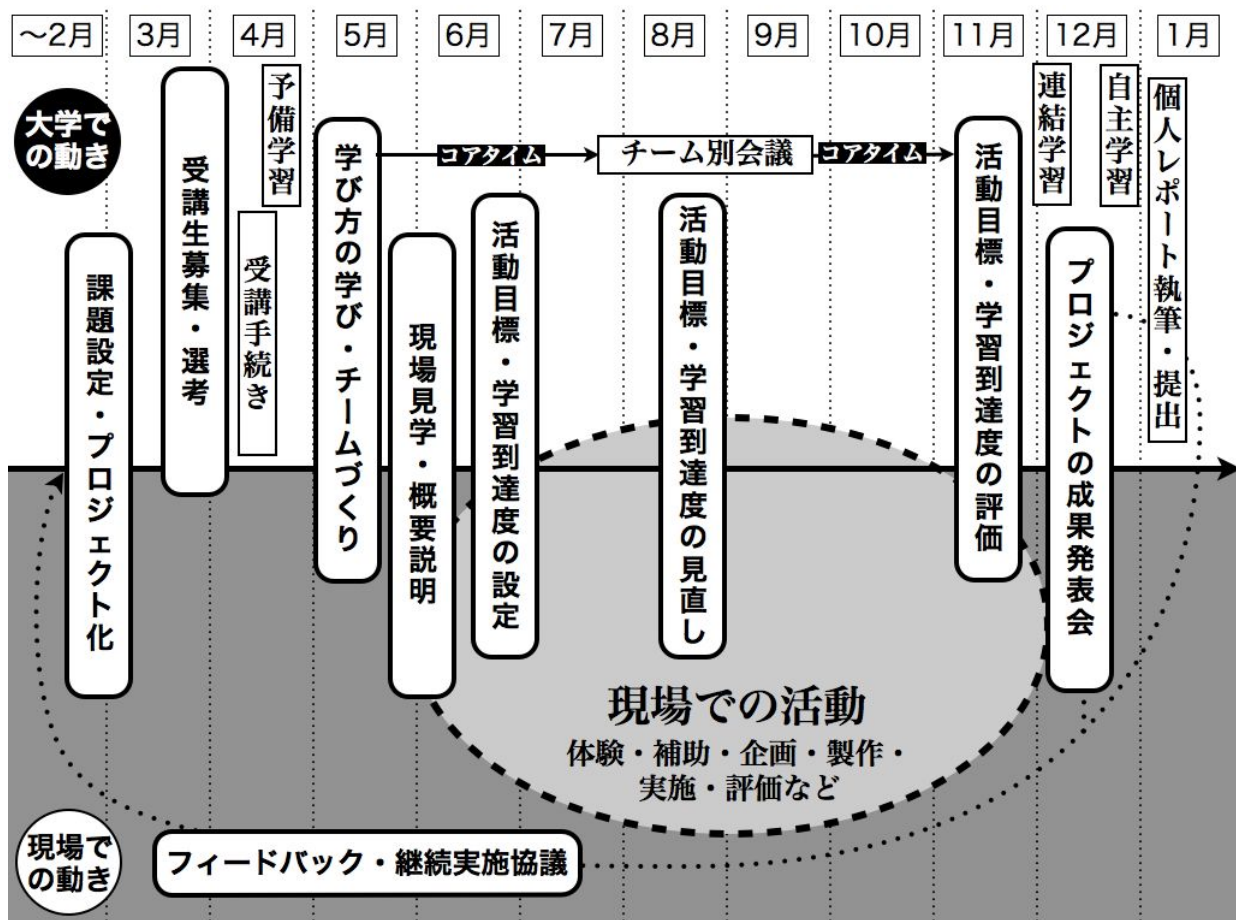
ボランティア活動の魅力を体感しながら、大学で学ぶ知に生きた風を呼び込んでください。

ーボランティアだけど奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。

それがサービスマーケティング！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、「奉仕活動」ではなく「ボランティア教育」プログラムです。ボランティア教育とは、体験的学習の一形態で、ボランティア活動を中心に事前・事後の学習(研修・振り返り)を組み、明確な教育目的に基づいて行われる教育プログラムです。よって、ボランティア活動を通じて、他者や地域(コミュニティ)の役に立つだけでなく、そこから学習効果を得られるよう設計されます。この点が、純粋な「奉仕活動」との違いです。単にボランティア活動に参加すれば、単位が認定されるというわけではありません！ボランティア活動を通して何を学びたいのか、確かな問題意識をもって取り組むことが重要です。

また、このような教育手法は、欧米ではサービスマーケティング(service-learning)またはコミュニティサービスマーケティング(communitary service-learning)と呼ばれています。



1.「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の流れ

エントリー	
エントリー期間 2017 年 3 月 23 日(木)10:00～4 月 6 日(木)11:00 エントリー方法 サービスラーニングセンターホームページ内「シチズンシップ・スタディーズⅠ/地域活性化ボランティア」のページより、Web 上にて必要事項を入力し、エントリーしてください。	エントリーに伴う諸注意 ・エントリーの内容をもとに選考を行います。 ・1 人の受講生が参加できるのはひとつのプロジェクトのみです。 ・選考を通過した人数が 5 人未満の場合、プロジェクト実施を中止する場合があります。 ・所属キャンパスと異なるキャンパスをベースとするプロジェクトに参加することはできません。

選考結果発表と必要な手続き	
発表日時 :2017 年 4 月 7 日(金)15:00 発表方法 :サービスラーニングセンター窓口・HP ※ 早めに確認してください。 ※ 受講前ガイダンスの案内も掲示します。	受講許可者を対象に、以下日程で受講前ガイダンスを行います。賠償責任保険への加入手続きも行います。 GA:4 月 10 日(月)5 限 GB:4 月 12 日(水)3 限 G :4 月 23 日(日)4 限

事前学習Ⅰ・Ⅱ(授業2回分)
①ボランティア活動について理解を深める ②ボランティア教育について理解を深める ③ボランティア教育(シチズンシップ・スタディーズⅠ)における「学び方」を理解する ④地域に入って活動するための心構えを整える ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む

オリエンテーション
①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む。

課題
オリエンテーションの終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅲに持参すること。

事前学習Ⅲ(授業1回分)	
①プログラム毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。	
②大学での学びと地域課題を結びつける視点をもつ。	持参物:ジャーナル



ボランティア活動(42 時間以上)

- ①(地域への貢献) 地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する
- ②(学習効果) 社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める

※活動時間の合計はプログラム共通で 42 時間以上が必要です。活動時間には、活動先でのオリエンテーションや反省会なども含まれます。

※以下の時間はボランティア活動時間には含まれません。その他の活動で、ボランティア活動に含まれるかわからない場合は、担当教員に相談してください。

- ・授業
- ・授業や活動報告会の準備
- ・コアタイムでの教員による指導、アドバイスの時間

※毎回の活動時間ごとに、「活動時間記録シート」に受け入れ先のサインをいただき、「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

コアタイム(週 1 回)

- ① それぞれの活動先での取り組みを共有し、学びを深めるための時間を設ける。
- ② 担当教員による指導やアドバイスを行う。
※ジャーナルの提出など、少なくとも月に 1 回はコアタイムを活用すること
※コアタイムの実施日時は、教員から指示、または教員と調整の上決定します

中間ふりかえり(授業1回分)

- ① 目の前の活動や個別の課題にのみ集中してしまい、がちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標をもって活動に臨んでいることを再確認する。
- ② 受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会をもつことで、「学び」を深める。

持参物: ジャーナル

事後学習 I・II (授業2回分)

- ① 活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する
- ② 自らの活動を評価する(事前学習Ⅲで設定した 2 つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③ プログラムを通じて学んだことを今後につなげていくのかを検討する
- ④ 「活動報告会」に備えて発表準備を行う

持参物: ジャーナル

活動報告会(授業2回分)

- ① ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
- ② 事前学習Ⅲで設定した「プログラムの目標(プログラム毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
- ③ プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
- ④ 受講の経験やそこから得た「学び」を今度どのように活かすのか

場所: 大阪いばらきキャンパス(3キャンパス合同で開催します)

発表: 20 分(質疑応答含む)/1 プロジェクト ※発表準備はプロジェクト全員で行う。

評価対象物(レポートなど)提出

2. 学研災付帯賠償責任保険について

「シチズンシップ・スタディーズ I」の各プロジェクトに参加するためには、事前に公益財団法人 日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険」(保険料 210 円/1 名)に加入する必要があります。選考を通過し受講が決定した学生は、受講前ガイダンスの際に保険加入手続きを行って下さい。保険加入の手続きは、センターが一括して行います。すでに当該保険に加入している場合は、その旨申し出てください。

「学研災付帯賠償責任保険」についての詳細は、パンフレットまたは下記 URL をご参照ください。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm>

3. 評価について

「シチズンシップ・スタディーズ I」は P/F(合格/不合格)評価です。評価は下記の要件、それぞれの内容をもとに行います。

- ① 原則、事前学習 I～Ⅲ、中間振り返り、事後学習 I・Ⅱ、活動報告会のすべてに出席していること
 - ② 「シチズンシップ・スタディーズ I」プロジェクトのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計 42 時間以上行なっていること
 - ③ 定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること
- (諸注意)
- ・ 所属学部や回生によって、開講していない場合があります。詳しくは、P9を参照してください。
 - ・ 事前学習 I～Ⅲ、中間振り返り、事後学習 I・Ⅱ、活動報告会の欠席は、原則認められません。ただし、やむを得ない理由でこれらを欠席した場合は、受講継続を認められることがあります。事前の届出を原則としますが、事後となった場合は、当該の授業日を含む 2 日以内とします。理由によっては、証明書の提出を求める場合があります。

4. 受講の中止について

受講生は受講開始後、以下の場合には、受講を中止することができます。

- ① 受講を継続することが困難になった場合
- ② 教育的配慮により、担当教員等が受講継続を困難と判断した場合

受講中止を希望する場合、担当教員に相談の上、「受講中止届」をサービスラーニングセンターに提出してください。なお、受講中止届を提出しても、受講登録の取り消し(受講辞退)にはなりません。受講許可後、評価の要件を満たさずに受講中止届を提出した場合、F 評価となります。

5. 大学での授業スケジュール

<衣笠>

GA クラス(宮下先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4 月 10 日	月	5	敬 242
事前学習Ⅰ	5 月 8 日	月	5	敬 242
事前学習Ⅱ	5 月 15 日	月	5	敬 242
事前学習Ⅲ	6 月 12 日	月	5	敬 242
中間振り返り	8 月 24 日	木	5	敬 242
事後学習Ⅰ	11 月 6 日	月	5	敬 242
事後学習Ⅱ	11 月 20 日	月	5	敬 242
活動報告会	12 月 10 日	日	13:00～	OIC B374 予定

GB クラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4 月 12 日	水	3	諒 843
事前学習Ⅰ	5 月 10 日	水	3	諒 843
事前学習Ⅱ	5 月 17 日	水	3	諒 843
事前学習Ⅲ	6 月 14 日	水	3	諒 843
中間振り返り	8 月 24 日	木	3	敬 240
事後学習Ⅰ	11 月 8 日	水	3	諒 843
事後学習Ⅱ	11 月 22 日	水	3	諒 843
活動報告会	12 月 10 日	日	13:00～	OIC B374 予定

<3 キャンパス合同>

G クラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4 月 23 日	日	4	朱雀 多目的室②
事前学習Ⅰ	5 月 21 日	日	3	朱雀 多目的室②
事前学習Ⅱ	5 月 21 日	日	4	朱雀 多目的室②
事前学習Ⅲ	6 月 10 日	土	4	朱雀 多目的室②
中間振り返り	8 月 25 日	金	4	OIC AN 221
事後学習Ⅰ	11 月 11 日	土	1	朱雀 多目的室②
事後学習Ⅱ	11 月 11 日	土	2	朱雀 多目的室②
活動報告会	12 月 10 日	日	13:00～	OIC B374 予定

6. 教員による指導・アドバイス(コアタイム)、受講中の諸相談について

担当教員による指導・アドバイスをうけるため、また学びを深めるため積極的にコアタイムを活用してください。コアタイムは、教員からの指示、または教員と受講生が相談の上、日時、場所を決定しますが、基本となる時間、教室は以下の通りです。

＜衣笠＞

【GAクラス(宮下先生)】 時間:月曜 5 限 教室:敬 242(前期・後期)

【GB クラス(秋吉先生)】 時間:水曜 3 限 教室:諒 843(前期・後期)

＜3 キャンパス合同＞

【Gクラス (秋吉先生)】 日時:6/10(土)5 限(朱雀)、7/1(土)3,4 限(朱雀)、

8/25(金) 5 限～8/26(土) 2 限(合宿・OIC)、10/1(日)2,3,4 限(OIC)

活動を進めるにあたり、活動先との関係作りや、心構え、活動に必要な備品などの点でアドバイスが必要なときは、担当教員もしくはサービスラーニングセンター窓口まで相談してください。

7. 学部別単位授与について

「シチズンシップ・スタディーズⅠ/地域活性化ボランティア」の単位授与は、所属学部、入学年度によって異なります。

・「シチズンシップ・スタディーズⅠ」【2012年度以降入学生】

学部	入学年度	単位	科目名	単位授与区分	要卒	年間受講登録 上限単位
法学部	2012～2015年 度入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目B群	要卒	含まれる
	2016年度以降 入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
産業社会学部	2012年度以降 入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
国際関係学部	2012年度以降 入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	基礎科目	要卒	含まれる
文学部	2012年度以降 入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
映像学部	2012年度以降 入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる

・「地域活性化ボランティア」【2011年度以前入学生】

学部	入学年度	単位	科目名	単位授与区分	要卒	年間受講登録 上限単位
法学部	2011年度以前 入学生	2	地域活性化ボランティア	キャリア形成科目 専門科目：共通専門分野・ 関連専門分野・学際科目分 野<キャリア形成、インター ンシップ、ボランティアは6 単位までしか要卒単位授与 しない>	要卒	含まれない
産業社会学部	2011年度以前 入学生(国際イ ンス以外)	2	地域活性化ボランティア	【2011～2007年度入学者国 際インスティテュート以外】 自由選択科目	要卒	含まれない
	2011年度以前 入学生(国際イ ンス)	2	地域活性化ボランティア	【2011～2007年度入学者国 際インスティテュート】 随意科目(自由科目)	要卒とし ない	含まれない
国際関係学部	開講しない					
文学部	2011年度以前 入学生	2	地域活性化ボランティア	他学部受講科目(自由選択 科目)	要卒	含まれる
映像学部	2011年度入 学生	2	特殊講義(地域活性化ボラン ティア)	教養教育科目	要卒	含まれない
	2010年度以前 入学生	2	地域活性化ボランティア	自由選択科目	要卒	含まれない

8. FAQ（よくある質問）

Q1. 2つのプロジェクトにエントリーできますか？

A1. いいえ。1人の受講生がエントリーできるのは、1つのプロジェクトのみです。よって、1人の受講生が2つ以上のプロジェクトを受講することはできません。慎重に選んで、エントリーしましょう。

Q2. 事前学習や事後学習を受けずに、ボランティア活動にだけ参加できますか？

A2. いいえ。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、ボランティア活動も含めて事前学習Ⅰから活動報告会までがひとつのセットになった授業なので、どこか一部分だけに参加することはできません。しかし、正課授業としての「シチズンシップ・スタディーズⅠ」以外にも、サービスラーニングセンターでは多くのボランティア情報を提供しています。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の受講に関わらず、ぜひ参照してみてください。

Q3. お金がかかりますか？

A3. プロジェクトによって異なります。受講料などはありませんが、ボランティア活動先への交通費や終日活動する場合の昼食代などがかかる場合があります。また、宿泊を伴うプロジェクトでは、別途宿泊代と食費がかかります。

Q4. ボランティア活動の経験がなくても、受講できますか？

A4. はい。ボランティア活動の前後に事前学習や事後学習（ふりかえり）があるので、ボランティア活動未経験の受講生も安心して受講できます。活動中に不安やトラブルが生じた場合は、いつでも担当教員またはサービスラーニングセンターへ相談してください。

Q5. 単位授与されますか？

A5. 必要な要件を満たすことで単位が授与されます。ただし、授与分野等は学部によって異なります。（一部、開講しない学部・回生もあります）

Q6. 他の授業と重なった場合、「授業配慮願い」や「公欠届」などは出ますか？

A6. いいえ。ボランティア活動の実習日と他の授業が重なった場合でも、サービスラーニングセンターから「授業配慮願い」などは出せません。重複しないよう注意してスケジュールを確認のうえ応募してください。万が一重なってしまった場合は、受講生各自の責任において対応してください。なお、「他の授業の受講」を理由に「シチズンシップ・スタディーズⅠ」を欠席することも認められません。

Q7. 学研災付帯賠償責任保険には必ず加入するのですか？

A7. はい。シチズンシップ・スタディーズⅠを受講するには、公益財団法人 日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険」に加入する必要があります。この保険は、正課活動中の損害（ケガや事故など）を補償するための保険で、受講生には全員加入が義務付けられています。保険加入の手続きは、サービスラーニングセンターが一括して行います。すでに当該保険に加入している場合は、二重に加入する必要はありませんので、受講前ガイダンスの際にその旨申し出てください。

9. 活動する上で心がけたいこと

①気持ちのよいあいさつをしましょう！

挨拶はすべての基本です。気持ちのよい挨拶はコミュニケーションの大切な第一歩です。

②言葉づかいに気をつけましょう！

受入先の方は地域課題を教えてくれる目上の社会人です。対等平等な「友達」ではありません。尊敬と感謝の気持ちを持って言葉遣いに気をつけましょう。

③約束・ルールを守りましょう！

ボランティア活動は人と人との信頼によって成り立ちます。約束やルールを守ることは基本中の基本です。自分の勝手な都合で約束やルールを違えることは、受入先の迷惑になるだけでなく、信頼関係を壊します。特に、無断での遅刻や欠席は、受入先に多大な迷惑をかけてしまいますので「厳禁」です。

④秘密は守りましょう！

活動中に知った情報の中には、個人の秘密にしておきたい情報もあることでしょう。こうした情報は絶対に口外してはいけません。秘密は守る！これも信頼を築く基本です。

⑤服装や持ち物は TPO をわきまえましょう！

活動先の仕事の中には、特に服装や持ち物について注意を促されることがあります。

そのことには全て理由があります。自分の意見やポリシーよりも、この注意を守ることが優先してください。

⑥わからないことは遠慮なく質問しましょう！

わからないことがあるのは、当たり前です。わからないことがあったら、授業を担当する教員や、受入先の担当者、サービスラーニングセンターのスタッフに遠慮なく聞きましょう。

⑦自主性を持って活動しましょう！

活動中、何をしたいかわからないこともあります。そのときは、「言われるまで何もしない」のではなく「何かお手伝いすることはありますか？」と聞きましょう。自分から動く姿勢を持つことで、より成長を実感できるでしょう。

⑧周りの人との関係を大切にしましょう！

ボランティア活動は、周りの人の気持ちを考え、相手の立場に立った行動をすることがとても大切です。みんなが気持ちよく活動できるように心がけましょう。

プロジェクト名:

減災×学びプロジェクト

受入団体名:立命館大学サービスラーニングセンター

募集人数

10名

<受入団体からのメッセージ>

わが国は大災害の時代に入っていると言われています。東日本大震災では死者1万5,893人、行方不明者は2,553人にのぼります(2017年3月10日警察庁発表)。他方で淡路大震災の被災地支援は「ボランティア元年」と言われ、東日本大震災では受援力の大切さが広く認識されるようになりました。そしていま、支援を受けた被災者が次の被災者を支援する「被災地のリレー」が生まれています。こうした震災をめぐる社会的動向に関心を持つ皆さんの受講を希望します。

<活動期間: 2017年 5月中旬 ~ 2017年11月下旬ごろ 活動日数: 20日程度>

<主な実習場所>

新潟県小千谷市、神戸市、岩手県大船渡市ほか

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール (○)Facebook (○)LINE ()電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

「被災者の苦しみと『居合わせた』支援者は自らも受難＝受動の様相におかれ、被災者と『共同して』否応なしに自立支援に立ち上がっていく。(似田貝香門編『自立支援の実践知』東信堂、2008年)。誰もが当事者であり担い手です。

<活動パターン>

- () 毎週1日程度・定例
 - (○) 月1~2回・不定期
 - (○) 主に夏期休暇・集中
 - () その他
- 具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

減災に関わる知見を磨くために被災地の「今」に想いを馳せ、日常生活のなかに意識化する

本プロジェクトでは、神戸市(人と防災未来センターにより2014年度から始められた「定点観測活動」、新潟・小千谷(2004年の中部地震により大きな被害が出た集落との交流による活性化活動)、岩手・大船渡(夏祭りへの参加。立命館と連携・協力協定あり)を訪問します。

神戸・新潟・東北をめぐることで被災地の「今」に想いを馳せながら、それと同時に被災地訪問で得られた学びから自らの日常における減災や支援・受援のあり方を考えます。

震災・減災をめぐる諸問題は決して他人事ではありません。震災は潜在化していた地域課題を顕在化させます。その意味では、日常生活の場である地域社会の課題を認識し、予防や対策を考えることも重要です。日常のささやかなコミュニティを作っておくことは最も有用な防災・減災になることと考えられます。

以上の点から、本プロジェクトでは、震災や減災をめぐる諸相を自分ごととして捉える感性を養い、日常生活レベルから実行可能な社会的行為の実現を目指します。

<期待できる学び>

- (1) 被災地の「今」を訪問することを通じて、被災地のこれまでとこれからを見つめ、今後継承していくべき知恵を体系的に学ぶことができる。
- (2) 「被災地」と一括りにはできない地域社会の多様性と複雑性を学ぶことができる。
- (3) 他大学・団体を含めた多くの実践者の姿に触れ、多様なキャリア形成の実例を学ぶことができる。
- (4) 物理的な距離の中でも、精神的な距離を縮める実践があることを自らの行動を通じて知ることができる。

<活動の流れ>

日時	実習場所	活動内容
5月19～21日or 26～29日	新潟県小千谷市	田植え
5月中旬から7月上旬 (調整のうえで決定)	神戸市	定点観測
8月4日～9日(予定)	岩手県大船渡市	夏祭りサポート参加(希望者)
9月下旬	新潟県小千谷市	稲刈り
10月下旬から11月上旬 (調整のうえで決定)	神戸市	定点観測
10月23日	新潟県小千谷市	慰霊祭

<受講生に求めること>

費用	交通費は各自必要です。できるだけ自己負担が高くないよう、工夫いたします。例えば、新潟では現地の民家等での宿泊(寝具代など1,000円程度)により活動します。また、立命館災害復興支援室では長期休暇中の活動への旅費支援制度が予定されています。
参加の姿勢	長距離移動やそれに伴う宿泊が必要となります。日程は既に決まっているものと受講生のなかで調整するものとありますが、可能な限りの積極的な参加と共有に努めてください。現地の方々や他大学の教員・学生とのコミュニケーションも大切にしてください。
終了後の評価	活動を通じて得られた知見をどのように日常生活のなかに意識化できるか、またそれらを身近な他者に伝えていくことができるか。これらの点の実践や言語化の度合いを評価します。

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

被災地の現実に寄り添い、多様な人びとと関わることによって、他者や社会に対する感性・想像力を育んでください。そこで感じたことを、皆さんの日常生活や周りの地域社会の様子の中に当てはめ・応用し、共感や違和感を整理してみてください。そこから踏み出す次の一歩がきっと皆さんのシチズンシップを向上させることでしょう。本プロジェクトが皆さんのよりよい成長の機会となるよう、ともに学んでいきましょう。

プロジェクト名:

時代祭応援プロジェクト

受入団体名: 平安講社第八社 時代祭・維新勤王隊列

募集人数

8名

<受入団体からのメッセージ>

京都三大祭のひとつ時代祭は「京都の誕生日」を祝う市民のお祭で、平安神宮の秋大祭です。時代祭は市民団体である「平安講社」が運営しており、京都市内を「社」と呼ばれる11地域に分け、社ごとに担当する時代を決めています。当プロジェクトを受け入れる第八社は中京区内にあります。しかし、少子高齢化が進み、祭の準備や運営は楽ではありません。そこで、学生の皆さんに加わっていただき、力をお借りしたいと考えています。

これらの活動は受講生の皆さんの学びの場でもあります。ぜひ支援活動を通じて住民とじかに接し、地域の実情や課題を考えてください。そのために、皆さんには「地域の人々と対話すること」を求めます。手伝いや準備作業をしながら、地域や祭について素朴な疑問をどしどしぶつけてください。

なお、地域には行政機関などと協働する、防災や社会福祉など各種のボランティア団体があります。これらの活動に参加する機会も紹介するので、地域社会に対する理解を深めてください。

<活動期間: 2017年5月27日～2017年10月29日 活動日数: 15日程度>

<主な実習場所>

平安神宮(地下鉄東山駅下車徒歩10分)
西ノ京中学(地下鉄二条駅下車徒歩7分)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ()Facebook ()LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

役員をはじめ地域住民の高齢化が進み、衣装の管理や演奏の練習を手伝う要員が欲しい

<活動パターン>

() 毎週1日程度・定例

(○) 月1～2回・不定期

() 主に夏期休暇・集中

() その他

→具体的には…

「活動の流れ」参照

<活動のテーマと主な内容>

時代祭の維持・存続のため「若い力」を求める

時代祭は10月22日に行われる平安神宮の秋大祭です。約2000人の京都市民が平安から明治までの時代衣装姿で都大路を歩きます。本プロジェクト受け入れ団体である第八社は「明治時代・維新勤王隊列」を担当します。しかし、地域から選出される役員の年齢層が高く、衣装管理や練習準備などの各種作業が負担となっています。ぜひ皆さんのお力をお貸しください。



維新勤王隊列は約150人の隊列です。
(女子は維新志士列などに参加)



8月には平安神宮収蔵庫から維新勤王隊衣装を出し「虫干し」をします。



時代祭で使うワラジの加工作業をしながら地域の役員と交流しています。
(2017年度は西ノ京中学体育館で作業予定)

<期待できる学び>

①京都の歴史・文化を深く学ぶことができる

②地域住民との協働作業を通じて、地域社会の現状や課題を知ることができる

③異なる年齢層との出会いや作業を通じて、対人関係力を鍛えることができる

＜活動の流れ＞

日時	実習場所	活動内容
5月27日（土）午後1時	平安神宮	オリエンテーション（境内案内、正式参拝、時代祭説明、地域取材の方法など）⇒終了後に懇親会
6月・7月の活動	地域では多くの団体・個人が各種の地域活動を行っています。いろいろご紹介しますので、積極的に参加して地域社会の現場を体感してください。 ・各種の地域団体(消防団、自主防災組織、社会福祉協議会等)の活動見学や参加 ・祇園祭(ちまき作りや鉦搭乘) ・中京区役所「中京マチビトCafé」参加(6月中旬、10月中旬) その他、コアタイムに朱雀地域内の会議室に集まり、地域住民との交流や各自が参加した地域活動での体験報告なども計画中	
8月6日（日）9～12時	平安神宮収蔵庫	維新勤王隊衣装虫干し
9月上旬～中旬	各学区	地域への挨拶、寄付金集め（詳細はメール連絡）
9月20日（水）午後6時	西ノ京中学体育館	入隊式（神事）と参加者一同の顔合わせ
9月21日～10月20日 午後7時～9時	西ノ京中学体育館	楽器演奏、隊列行進の練習、ワラジ製作 （各回2～4名の当番制で準備と受付補助など）
10月9日（祝）午前9時	平安神宮収蔵庫	衣装渡し（各学区への衣装仕分けなど）
10月15日（日）午後1時	平安神宮本殿前	宣状式（神事）
10月20日（金）午後6時	西ノ京中学体育館	最終練習後に行進練習、衣装着付け説明
10月21日（土）午後4時	朱雀公園	隊士集合場所の設営、進行路へのビラ配付
10月21日（土）午後7時	西ノ京中学	前日準備
10月22日（日） 午前7時～午後9時	集合場所～御所～神宮～西ノ京中学～直会(なおりい)	時代祭当日（雨天時は翌23日）午後6時から直会朝の集合場所 男子:西ノ京中学 女子:平安神宮
10月23日（月）午前10時	洛陽総合高校ほか	衣装回収・陰干し
10月29日（日）	平安神宮収蔵庫	衣装戻し

＜受講生に求めること＞

費用	活動場所までの交通費
参加の姿勢	当プロジェクトでは、学内よりも学外での活動を重視します。学外では新鮮な経験が数多くできますが、同時に煩わしいことや気を遣う場面も少なくありません。仲間と助け合うチームワークも必要です。そこで、受講生には以下の要件を求めます。 ①行動力...受講期間中は平安神宮や祭を担う地域、場合によっては祇園祭の関係先などに出向きます。そして作業を手伝ったり、地域の人々と接したりする機会が多々あります。体を動かすことをいとわない学生を求めます。 ②自主性...活動の性質上、一切において受講生側が主体的に動くことが必要です。何かを「してもら」「教えてもら」という姿勢では何も学べません。何かを「する」「学びとる」という意識を常に忘れないでください。 ③工夫する力...活動を面白くするのもつまらなくするのも、すべては受講生次第です。面白くないと感じたら、自分たちが工夫して面白くしてください。退屈だと思ったら、斬新なアイデアを提案してください。 ④チャレンジ精神...学外に出ると、立場が異なる人々に出会い、想定外の出来事にも遭遇します。「面倒くさい」と尻込みするか、「当たって砕けろ!」と踏み出すか——ここが成長の分かれ目です。ダメでもともと、失敗するのが当たり前、そんな大らかでタフな人を求めます。 ⑤対人関係力...当プロジェクトでは、祭の関係者や地域住民と徹底的に対話をしてもらいます。しかも、皆さんがこれまで接したことがない、年代も立場も違う人たちばかりです。こうした対話を重ねる中でしか、地域の生の姿はつかめません。初対面でも臆せず話せる人、話好きな人は大歓迎です。今は口下手だけど、頑張って会話上手になりたいという人もOKです。
終了後の評価	学校、仕事、家族など、人には色々な所属や「顔」があります。その一つに是非「地域社会の構成員」も加えてください。そして、このプロジェクトを通して学んだ地域との付き合い方を今後どこかで実践していただければと思います。

プロジェクト名:

ユース街づくりスタッフ「チーム街スタ」プロジェクト

受入団体名:(公財)京都市ユースサービス協会京都市下京青少年活動センター

募集人数

5名

<受入団体からのメッセージ>

若者×地域×企業 若者の考えを取り入れた“まちづくり”を考える

センター周辺には西本願寺や東本願寺をはじめとする歴史ある建物や商店街。京都駅を中心とした商業施設や企業。少し西に行くと中央卸売市場や地域の人の食を支える商店街が存在しています。様々な商店・企業がある下京区で、たくさんの人と出会いながら地域の課題を知り、まちづくりについて考えてみませんか？

<活動期間:2017年5月～2017年12月ごろ 活動日数:20日程度>

<主な活動場所>

京都市下京青少年活動センター、センター周辺の商店、企業
最寄駅・バス停など:JR 京都駅(徒歩約10分)・京阪 七条駅(徒歩約5分)
京都市バス 塩小路高倉(徒歩約3分)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ()Facebook (○)LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

あなたは自分が住んでいる地域のことをどれくらい知っていますか？「ただ住んでいるだけでほとんど知らない。」そんな人も多いのではないのでしょうか？地域を知ると、思いがけない発見や、人との出会い、交流が生まれます。このプロジェクトを通して、「地域交流」を体験的に学び、あなたが学んだことを、たくさんの人に発信してほしいと思います。

<活動パターン>

- (○) 毎週1日程度・定例
 - () 月1～2回・不定期
 - () 主に夏期休暇・集中
 - (○) その他
- 具体的には…
イベント前等集中的に
作業をすることがあります

<活動のテーマと主な内容>

若者と大人が地域のために協同する

下京区内には、本願寺をはじめとした歴史ある建物、また、その周辺に存在する歴史ある商店街。京都駅周辺には京都タワーや企業。中央卸売市場やその周辺地域の食を支える商店街があります。また、梅小路公園では週末様々な催しが開催されています。

これまでのシチズンシップ・スタディーズⅠ受講者や、京都市下京青少年活動センターボランティアが作った繋がりを活かしながら、区内の団体・個人が一緒に行える「まちづくり」について考えてみませんか？

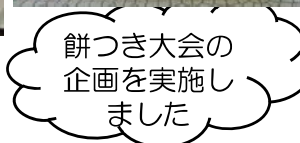
地域の方と一緒にイベントを行ったり、どんなことができるか話し合ったり、実際に商店に出向いたり…。様々な活動を通して、「まちづくり」を進めていきましょう。



センターでは
区内で働く方を招いてのミーティングや
メンバー間での企画会議などを行っています



地域の夏祭り
に出店したり



餅つき大会の
企画を実施し
ました

<期待できる学び>

アイデアを形にする体験。

ボランティアメンバーや様々な大人と対話することで身につくコミュニケーション力。

多様な価値観や考え方に触れ、自身の知見や価値観を広げる。

<活動の流れ>

5月
顔合わせ
ミーティング



6月～
地域リサーチ
ヒアリング



8月～
イベントや祭参
加・出店



10月～
センター内でイ
ベント実施



<活動の流れ>

日時	実習場所	活動内容
毎週月曜日	京都市 下京青少年活動センター	定例ミーティング 月曜日以外にもフィールドワークや、臨時ミーティングがあることがあります
5月5日	梅小路公園	Made in 京都にブース出店
5月7日	京都市 下京青少年活動センター	センター周辺の祭りに参加
5月8日	京都市 下京青少年活動センター	センター周辺の祭りに参加
5月15日	松尾大社	地元の祭りに参加
7月	七条中央サービス会	サマーナイトフェスティバルに参加(予定)
9～10月	京都市 下京青少年活動センター	しもせいフェスタで地域連携企画の実施(予定)
10～12月	京都市 下京青少年活動センター	必要に応じ、地域イベントの実施(予定)

<受講生に求めること>

費用	京都市下京青少年活動センターまでの交通費
参加の 姿勢	特になし。
終了後 の評価	担当者との振り返り。 報告書の提出。

プロジェクト名:

「里山体験プログラム」を企画するプロジェクト

受入団体名:(公財)京都市ユースサービス協会京都市北青少年活動センター

募集人数

5名

＜受入団体からのメッセージ＞

皆さんは、どんな大人になって、どんな人生を歩いていきますか…？
就活をして、会社に入って、まちで暮らすだけが人生じゃない！
実は、私たちの身近なところにも、いろいろな生き方をしている人がいます。
その暮らしに触れ、お話を聞き、その土地を見て感じたことを、同年代の若者(主に20代)に伝えませんか？

＜活動期間:2017年6月ごろ～2017年11月ごろ 活動日数:15日程度＞

＜主な実習場所＞

北青少年活動センター(地下鉄「北大路」駅より歩10分、市バス「北大路堀川」より歩3分)
フィールドワークは北山三学区

＜日常的なコミュニケーションの手段＞

(○)電子メール (○)Facebook ()LINE (○)電話

＜活動する現場で学生が求められる理由＞

地域の魅力や課題を、若者目線で切り取り、感じたことを同年代に伝えてもらいたい。
フィールドワークを通して、都市部と周辺部の関係性や、持続可能な社会のあり方、あるいは自分の生き方(ライフデザイン)についても考える機会になる。

＜活動パターン＞

- () 毎週1日程度・定例
- () 月1～2回・不定期
- () 主に夏期休暇・集中
- (○) その他

→具体的には…

月2回程度のペースで企画会議を持つ予定です。(金曜日)
現地フィールド調査は別途行います。

＜活動のテーマと主な内容＞

まちの若者に里山での暮らしを紹介する

- 北区の特徴でもある北山周辺の自然や、そこで暮らす人々の暮らしぶりを通して、まちで暮らす若者が生き方を考えるためのプログラムを企画します。
- 具体的なフィールドは、北山三学区(小野郷、中川、雲ヶ畑)のいずれかに設定する予定です。
- 何回かフィールドワークを行い、上記の中から「ここがいい!」というエリアを絞り込み、具体的なプログラムを検討します。
- 他のプログラムにもスタッフ参加し、プログラム運営を実践から学ぶことができます。

＜期待できる学び＞

- 現地調査、企画、広報、実施、報告までの一連の流れを実践的に学ぶことができる。
- 都市部と周辺部の関係性や、持続可能な社会のあり方、あるいは自分の生き方(ライフデザイン)についても考えることができる。
- 地域の魅力や課題に触れ、そこから伝えたいことを抽出して伝える「発信力」を磨くことができる。
- 多様な価値観に触れることで、自分自身の物の考え方の幅を広げることができる。

<活動の流れ>



<活動の流れ>

日時	実習場所	活動内容
5月中旬 日曜日	フィールドワーク①	北センター事業「こども自然・暮らし体験クラブ」のプログラム(田植え)に同行。
6月中旬 日曜日	フィールドワーク②	北センター事業「こども自然・暮らし体験クラブ」のプログラム(水辺遊び)に同行。
7月上旬 未定	フィールドワーク③	まちあるきプログラムに参加。地場産業について知る。
9月上旬 日曜日	フィールドワーク④	北センター事業「こども自然・暮らし体験クラブ」のプログラム(稲刈り)に同行。オプション参加。
その他 (随時)	北青少年活動 センター	センター事業にスタッフ参加し、プログラムの進め方を学ぶ。オプション参加。
6月～7月	〃	月2回の定例ミーティング。第2第4金曜日夜の予定。各フィールドで感じたことを共有、まとめ。
8月～9月	〃	月2回の定例ミーティング。第2第4金曜日夜の予定。プログラム内容の企画、広報媒体の作成、広報開始。
10月中旬	(場所未定)	プログラム当日
10月下旬～ 11月中旬	北青少年活動 センター	ふりかえり、まとめ、報告書の作成

<受講生に求めること>

費用	○北青少年活動センターまでの交通費(駐輪場あり) ○フィールド調査を行う際の現地までの交通費 ※一部補助を検討中 雲ヶ畑(もくもく号利用／片道500円) 中川(JRバス利用／片道740円) 小野郷(JRバス利用／片道900円) ○中川まちあるき参加費 2,000円
参加の姿勢	プログラムをいちから作り上げる過程を実践するプログラムです。 企画会議やフィールド調査だけでなく、他のプログラムの機会も積極的に活用し、多くの経験を積んでもらいたいと思います。
終了後の評価	担当者とのふりかえり 参加者からのアンケート 報告書の作成

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

特別な知識やスキルは必要ありませんが、まちづくり活動やコミュニティワークに関心のある人のエントリーを期待します。

プロジェクト名:

ネパール・子どもスマイルプロジェクト

受入団体名: シャプラニール＝市民による海外協力の会

募集人数

5名～16名

※「ネパール・子どもスマイルプロジェクト」と「ネパール・女性×フェアトレードプロジェクト」の合計人数

<受入団体からのメッセージ>

ネパールにどんなイメージを持っていますか？ヒマラヤ山脈、世界遺産、2015年の大地震、最貧国……。小さな国でありながら様々な顔を見せるのがネパールです。そして、ネパールの子どものにも私立の学校に行って英語が流ちょうな子もいれば、小さいころから働くのが普通の子どもたちもいます。子どもたちの暮らしや、子どもたちを取り巻く環境を実際にネパールの子ども、NGOスタッフと活動することで体感してみませんか。皆さんが子ども支援と一緒に関わることで、現地のNGOスタッフにも刺激になります。皆さんの参加をお待ちしています。

<活動期間: 2017年5月～2017年12月 活動日数: 15日程度>

<主な活動場所>

ネパールおよびキャンパス近郊

<日常的なコミュニケーションの手段>

(●)電子メール (●)Facebook ()LINE ()電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

・児童労働現場や虐待などを受けた子どもが保護されている
シェルターでの子どもたちは学生と交流することで楽しみ、癒され、人から愛され大事にされることを感じることができます。
・日本の文化を共有したり若者ならではの視点での交流は、子どもたちにとっても大きな学びと刺激になります。

<活動パターン>

()毎週1日程度・定例

()月1～2回・不定期

(●)主に夏期休暇・集中

(●)その他

→具体的には…

キャンパス近郊国際協力イベント

ネパール実習

OIC Asia Weekなど

<活動のテーマと主な内容>

ネパールの子どもと笑顔に

ネパールでは、5人に1人の子どもが働いています。ネパールは世界的に見ても児童労働が多い国です。大規模なレストランや工場など行政に登録して営業する業種では、児童労働は減ってきていますが、家事使用人やポーター、小さなレストランや茶店など行政の目が届かない業種ではいまだ大きな社会問題です。

この問題に取り組むネパールのNGO CWINでのボランティアを行います。CWINは子どもの権利拡充のための啓発活動、政策提言を活発に行いつつ、ストリートチルドレンや働く子どもなど、厳しい状況に置かれている子どもたちへの直接的な支援にも取り組んでいます。また、ネパール政府からの委託を受け、無料電話相談サービスである「チャイルド・ヘルプ・ライン」も運営。現在、約160人のスタッフを抱え、30の郡(DDC)で活動を展開しています。

ネパール渡航時には、カトマンズにあるCWINのヘルプセンターでレスキューされてきた子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごすプログラムを企画・実施。また、こうして働かざるを得ない子どもたちが生まれてしまう現状を学校や地方行政の訪問等を通じて体感します。これらネパールでの経験を生かして、帰国後には、日本でできることを企画、実践します。

<期待できる学び>

途上国において、深刻な問題となっている、子どもの貧困という社会問題について、実際の現場を体感することを通じた深い学びを得ることができます。また、その問題に長年にわたって取り組んできたNGOにおいて、スタッフやネパール人大学生ボランティアとともに、子ども支援に携わることで、解決に向けた活動に加わる機会を得ることができます。

さらに、これらの経験を通して、途上国の子どもの貧困を解決するために、私たちがすべきこと、できることを考えるモチベーションを得ることができます。そして、実際にキャンパスもしくはその近郊で、解決に向けた行動をとる機会を模索することができます。

<活動の流れ>

5/21(日)3,4限 事前学習Ⅰ,Ⅱ(ボラとは?興味関心)

6/10(土):3限 ネパールにおける社会課題の理解【シャプラストaffからスカイプなど】

4限 事前学習Ⅲ(目標設定)

↓

6月下旬～8月 関西近郊で行われる国際協力イベントへの参加

【地域連絡会イベント、児童労働反対キャンペーン、ステない生活などでのボランティア(関西近郊)】

【希望者はユースForumや集いなどへの参加(夏休み 関東近郊)】

7/1(土) 3,4限:コアタイム 社会課題理解のための勉強会など

↓

8/25(金) 4限 中間ふりかえり

5,6限,宿泊,8/26(土)1,2限 コアタイム実習準備【シャプラストaff/地域連絡会参加】

↓

9月9日(土)～16日(土)(予定) ネパール実習:ボランティア活動&コアタイム(毎日のふりかえり)

【シャプラ ネパール事務所スタッフ参画】

↓

10/1(日) 2,3,4限 コアタイム 実習ふりかえり&Asia Week 準備

10月～11月上旬 関西近郊で行われる国際協力イベントへの参加

Asia Weekでのイベント実施

↓

11/11(土)1,2限 事後学習Ⅰ,Ⅱ(チームとしてのふりかえり)

↓

12月10日 報告会【シャプラストaff/地域連絡会参加】

【 】内は、シャプラニール始め国際協力団体の協力

<受講生に求めること>

費用	ネパール旅費(予定) 往復飛行機代約15万円,現地交通費3万円、滞在費2万円、ビザ代1万円、通訳等委託費2万円、食費1万5千円、海外旅行保険5千円 合計約25万円 ※本プログラムは立命館大学海外留学チャレンジ奨学金(4万円または2万円)の対象です。
参加の姿勢	異文化理解、ネパール社会が抱える課題の背景への理解
終了後の評価	ネパール現地実習時の学習態度および実習グループ間の学びあいに対する姿勢

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

ネパールでのツアー参加のみならず、その前後も「自分たちの社会、暮らしとの重なりは何か」、「自分たちにできることは何か」を考え、積極的に活動されることを期待します。

プロジェクト名:

ネパール・女性×フェアトレードプロジェクト

受入団体名: 特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会

募集人数

5名～16名

※「ネパール・子どもスマイルプロジェクト」と「ネパール・女性×フェアトレードプロジェクト」の合計人数

＜受入団体からのメッセージ＞

日本のスーパーやお店でフェアトレード商品を見かける機会が増えてきました。それらを実際に作っている人はどんな人だろう？どんな生活に影響があるのだろうか？そんな疑問のあなたなりの答えを、実際にネパールでフェアトレードの手工芸品を作っている女性たちに会って、一緒に活動したり、交流することで見つけてみませんか？きっと新鮮な発見があると思います。

＜活動期間: 2017年5月～2017年12月 活動日数: 15日程度＞

＜主な実習場所＞

ネパールおよびキャンパス近郊

＜日常的なコミュニケーションの手段＞

(●)電子メール (●)Facebook ()LINE ()電話

＜活動する現場で学生が求められる理由＞

重要なフェアトレード商品の購入国である日本の学生と交流することで、生産者は生産へのモチベーションを上げたり、求められるデザインや品質について学ぶことができると期待しています。

＜活動パターン＞

- () 毎週1日程度・定例
- () 月1～2回・不定期
- (●) 主に夏期休暇・集中
- (●) その他

→具体的には…

キャンパス近郊国際協カイベント
ネパール実習
OIC Asia Weekなど

＜活動のテーマと主な内容＞

貧困女性の自信とフェアトレード

最貧国ネパールの地方部では、現金収入が得られる仕事はわずかです。そんな中、村外にでることが難しい女性たちにとって、手工芸品づくりは定期的な収入を得ることができる大切な仕事です。その収入によって一日に三度の食事ができるようになる、子どもたちを学校に通わせられるようになるなど、たくさんの生産者とその家族の生活を支えています。

この女性生産者によるフェアトレード商品の生産販売に取り組むWSDOで、手工芸品生産のお手伝いなどのボランティア活動を行います。また、生産者のお家を訪問させていただき、家にいながら、あるいは家の近くでできることで、子育てや家事と両立が可能な手工芸品生産の重要性を体感します。織り物、編み物など身近な技術を活かした手仕事を、収入向上につなげるための様々な仕組みを学び、それを構築してきた女性たちのライフストーリーを聞かせてもらいます。

これらネパールでの経験を生かして、帰国後には、日本でできることを企画、実践します

＜期待できる学び＞

途上国において、深刻な問題となっている、貧困や低賃金労働という社会問題について、実際の現場を体感することを通じた深い学びを得ることができます。また、その問題に長年にわたって取り組んできたNGOにおいて、スタッフとともに、女性フェアトレード生産者支援に携わり、生産者の生活を体感することで、解決に向けた活動に加わる機会を得ることができます。

さらに、これらの経験を通して、途上国の女性生産者の自信を作り出すために、私たちがすべきこと、できることを考えるモチベーションを得ることができます。そして、実際にキャンパスもしくはその近郊で、解決に向けた行動をとる機会を模索することができます。

<活動の流れ>

5/21(日)3,4限 事前学習Ⅰ,Ⅱ(ボラとは?興味関心)

6/10(土):3限 ネパールにおける社会課題の理解【シャプラストaffからスカイプなど】
4限 事前学習Ⅲ(目標設定)

↓

6月下旬～8月 関西近郊で行われる国際協力イベントへの参加
【地域連絡会イベント、フェアトレード商品広報などでのボランティア(関西近郊)】
【希望者はユースForumや集いなどへの参加(夏休み 関東近郊)】

7/1(土) 3,4限:コアタイム 社会課題理解のための勉強会など

↓

8/25(金) 4限 中間ふりかえり
5,6限,宿泊,8/26(土)1,2限コアタイム実習準備【シャプラストaff/地域連絡会参加】

↓

9月9日(土)～16日(土)(予定) ネパール実習:ボランティア活動&コアタイム(毎日のふりかえり)
【シャプラ ネパール事務所スタッフ参画】

↓

10/1(日) 2,3,4限 コアタイム 実習ふりかえり&Asia Week 準備
10月～11月上旬 関西近郊で行われる国際協力イベントへの参加
Asia Weekでのイベント実施

↓

11/11(土)1,2限 事後学習Ⅰ,Ⅱ(チームとしてのふりかえり)

↓

12月10日 報告会【シャプラストaff/地域連絡会参加】
【 】内は、シャプラニール始め国際協力団体の協力

<受講生に求めること>

費用	ネパール旅費(予定) 往復飛行機代約15万円,現地交通費3万円、滞在費2万円、ビザ代1万円、通訳等委託費2万円、食費1万5千円、海外旅行保険5千円 合計約25万円 ※本プログラムは立命館大学海外留学チャレンジ奨学金(4万円または2万円)の対象です。
参加の姿勢	異文化理解、ネパール社会が抱える課題の背景への理解
終了後の評価	ネパール現地実習時の学習態度および実習グループ間の学びあいに対する姿勢

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

ネパールでのツアー参加のみならず、その前後も「自分たちの社会、暮らしとの重なりは何か」、「自分たちにできることは何か」を考え、積極的に活動されることを期待します。